

【佳作】

命の水

気仙沼市立気仙沼中学校

二年 横山 葵

「水を大切にしないさ。」

そう言われたことはないだろうか。私は、親に何度か言われたことがある。しかし、親にそう言われる度に、なんで？別にいいじゃん、いっぱいあるんだし、と思っていた。そのため私は、今まで一度もなぜ水を大切にしないといけないのか考えたことがなかった。しかし、この作文をきっかけに、なぜ水を大切にしなければならないのか考えてみた。

一つ目は人間など、生物は生きるために水は欠かせないということだ。例として、人間の体内の三分の二は水ということだ。もしも人間が水を四日から五日取らなければ、脱水症状になり、最悪死んでしまうそうだ。また、食べ物にも水は欠かせない。例えば私たち日本人の主食である米だ。米は、田んぼで育つ。田んぼといえば、何を想像するだろうか。私は、水を想像する。なぜなら、田んぼ一面に水が張っているのがとても印象的だからだ。私の家には田んぼがあり、水が張っている田んぼを何回も見ているため、とても水が印象に残っている。そんな田んぼに、なぜ水が張っているのかというと、稲は、吸水力が弱く、多く吸水させるために浸しておかないといけないそうだ。そのため、米の成長には、水が欠かせないといえる。他にも畑で野菜や果物を栽培するにしても、肉でも、食べ物のほとんどが水が必要だ。食料の面でも、生きるためには、水の存在が欠かせない。

二つ目は水には限りがあるということだ。地球にある九十七・五パーセントは海洋水で塩分を含んでおり、塩分を含まない淡水は、わずか二・五パーセントしかない。しかも、その内の半分以上が南極や北極にあり、使

いやすい淡水は、全体の〇・〇一パーセントのみにしかならない。これを知らなければ、とても衝撃を受けた。たったの〇・〇一パーセントだ。水も有限なのに、無駄遣いをして自分が恥ずかしいと感じた。

このようなCMをみたことはあるだろうか。それは、アフリカの子どもなどたくさんの方が水不足のため、不衛生な水を飲んでいることを私たちに訴えるCMだ。このCMは、何年か前のCMだったが、今でもはっきりと記憶に残っている。自分より小さい子も、同じ年くらいの子も不衛生な水を飲んでいられる。これを知り、胸が痛くなった。もし自分が生まれていたら？そう考えるだけで恐ろしく感じる。私は生きていける気がしないからだ。それと同時に、今の自分の普段の生活がどのくらい恵まれているのかをとて実感する。日本だといつでも水を飲みたいときは蛇口を捻れば衛生な水が出てきて飲むことができる。そんな私たちにとって当たり前のことが、どれほどありがたいことなのか再確認することができた。

このことから、水に対して自分にできることがあるか考えてみた。それは節水を心掛けることだ。石鹸やシャンプー、洗剤も無駄遣いせず、適切な量だけ使おう。という取り組みだ。この少しの取り組みでも水質汚染を少し防げる。私もシャンプーやせっけんを多く出してしまっているので、これから気を付けていきたい。

この作文を書くまでは、なぜ水を大切にしなければならないのか分からなかったが、この作文を通して水は人が生きていくには欠かせないこと、水には限りがあること。そのため取り組みをしていることを学ぶことができた。この取り組みをする人を増やすために、学んだことを人へ伝えていきたい。